

Pictet Market Flash

7月のユーロ圏PMI:ユーロ圏は持ち堪えるも、英国は大幅悪化

英国の国民投票後の期間が調査対象となることから注目を集めていたマーケット発表の2016年7月のユーロ圏購買担当者景気指数(総合指数、PMI)速報値は、予想以上に良好な数値となりました。英国の欧州連合(EU)離脱(ブレグジット)を巡る不透明感の影響はないとの見方があるかもしれませんが、サブ指数の中には先行きの悪化を示唆するものもあることには留意が必要です。

英国国民投票後、初のPMIは強弱交錯

2016年7月のユーロ圏購買担当者景気指数(総合指数、PMI)速報値は52.9となり、6月の53.1は僅かに下回ったものの、市場予想の52.5を上回りました(図表1参照)。製造業PMIが前月比-0.9ポイントの51.9と総合指数のマイナス要因となったのに対し、サービス業PMIは同-0.1ポイントの52.7と市場予想を上回りました。

もっとも、いくつかのサブ指数は低調な先行きを示唆しています。製造業PMIのサブ指数では、内需の低迷を受け、新規受注指数が52.0と前月比で大きく低下しました。新規輸出受注指数は、英国向け輸出の減少をこなし52.4と小幅の低下に留まりました。

サービス業PMIのサブ指数では、事業期待指数が前月比-2.7ポイントの59.9と大幅に低下したことが注目されます。

一方、製造業PMIのサブ指数のうち、投入価格指数が51.3、生産価格指数が49.8といずれも上昇し、通貨安と原油価格の上昇を背景にデフレ圧力が緩やかながら後退しつつあることを示唆しました。

7月のユーロ圏PMIは、7-9月期のGDP(域内総生産)成長率が前期比でプラス0.2~0.3%の範囲に収まる公算が高いことを示唆していると考えます。

国別PMI:ドイツ、フランスは上昇、英国は大幅下落

国別では、英国が大幅に下落した一方でドイツ、フランスがともに上昇したことが注目されます(図表2参照)。独・仏・英以外の国別PMIは現時点で発表されていませんが、マーケットは「その他のユーロ圏加盟国については、製造業PMI、サービス業PMIともに低下しており、事業活動は2014年12月以来の最低水準に沈んだことが示唆される」とコメントしています。また、マーク

<次ページに続きます>

図表1:ユーロ圏購買担当者景気指数(PMI)

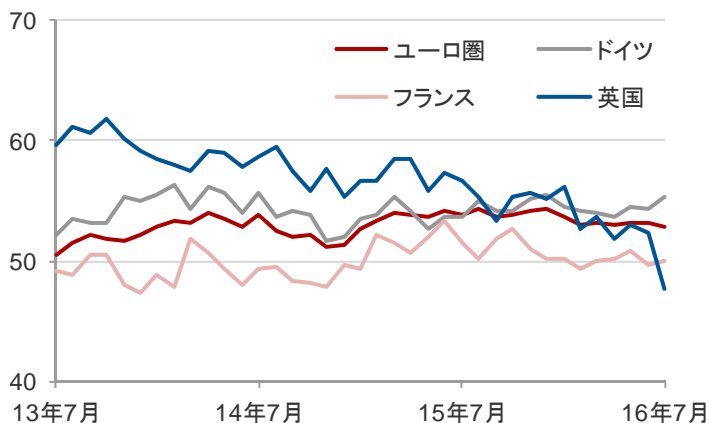
時点:2016年7月

	7月速報値	前月	3か月前	前月からの動き
総合	52.9	53.1	53.0	↓
新規受注	52.7	52.8	53.1	↓
雇用環境	53.2	52.9	51.8	↑
製造業	51.9	52.8	51.7	↓
新規受注	52.0	53.6	52.1	↓
雇用	52.0	52.4	51.6	↓
生産価格	49.8	49.3	47.4	↑
投入価格	51.3	49.6	45.2	↑
サービス業	52.7	52.8	53.1	↓
新規事業	53.0	52.5	53.4	↑
雇用	53.6	53.1	51.9	↑

※内訳は抜粋
出所:ピクテグループ

図表2:ユーロ圏および各国のPMI総合指数

月次、期間:2013年7月~2016年7月



出所:ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

イットが初めて公表した2016年7月の英国の総合PMI速報値は、月間の事業活動が2009年以来で最大の落ち込みを記録し、企業心理が際立って悪化したことを確認するものとなりました。

2016年7月のドイツPMI(総合指数)は55.3と6月の54.4、市場予想をともに上回り、年初来の最高水準となりました。サービス業PMIが54.6(前月比+0.9ポイント)と前月に続いて好調で、総合指数の上昇に寄与しました。

サービス業PMIのサブ指数では、雇用指数の上昇が際立ちました。ただし、堅調な国内の事業活動とは裏腹に期待指数は9ヵ月ぶりの低水準に沈んでおり、マークイットは「今後12ヵ月については、景気の減速が事業活動に影響を及ぼすことを懸念する企業も出てきている」とコメントしています。

ドイツの7月の製造業PMIは前月比-0.8ポイントの53.7に留まりました。雇用指数、新規事業指数ともに伸びの鈍化が目立ったものの、両サブ指数ともに過去との比較では最高水準を維持していることから、7-9月期のドイツGDP(国内総生産)成長率は良好な数値が見込まれます。

7月のフランスPMI(総合指数)は50.0と6月の49.6、市場予想の49.2をいずれも上回り、ドイツと同様、好調でした。新規受注サブ指数が50.5(前月比+3.2ポイント)と大きく上昇し、製造業PMI(前月比+0.3ポイントの48.6)をけん引しました。サービス業PMIは前月比横ばいの50.0でした。

フランス経済の先行きは強弱交錯の状況ですが、7月のPMIからは民間セクターの事業活動が安定しつつあることが示唆されます。とはいえ、GDP成長率は、4-6月期、7-9月期ともに1-3月期(前期比+0.6%)からの大幅減速が見込まれます。足元の環境では内需の持続が見込まれず、年率+4%の高成長は実現困難だとと思われるからです。

独・仏両国とは対照的に、7月の英国の企業心理は悪化が際立ち、英国PMI(総合指数)は47.7と6月の52.4、市場予想の49.0をいずれも下回って、2009年4月以来の最低水準に沈みました。サービス業PMIは47.4(前月比-4.9ポイント)製造業PMI49.1(同-3.0ポイント)と揃って総合指数の下げをけん引しました。国内経済の先行きを示唆するサブ指数では、新規受注指数が大幅に低下しており、その他のPMI構成項目の悪化も際立ちました。好調だったのは新規輸出サブ指数のみで、ポンド安を背景に、2ヵ月連続の上昇となりました。

7月のPMIからは英国経済の際立った悪化が確認されたものの、「ブレグジット」の影響の度合いを正確に測るには今後発表の主要指標を見極める必要があります(図表3参照)。したがって、英国のGDP成長率については、当面のところ、従来予想を維持します。

図表3:ユーロ圏の主な経済指標の発表予定

時点:2016年7月22日

7月

25日	独Ifo企業景況感指数(7月)
27日	英国GDP(2016年4-6月期)
28日	欧州景況感指数(ESI)(7月)
29日	ユーロ圏GDP(2016年4-6月期)、 ユーロ圏消費者物価指数(7月)

8月

1日	ユーロ圏/英国製造業PMI(7月確定値)
3日	ユーロ圏/英国サービス業PMI、総合PMI(7月確定値)
4日	英中央銀行(イングランド銀行、BOE)金融政策委員会 および8月物価レポート
24日	ユーロ圏PMI(8月速報値)

予定は変更・中止される場合があります
出所:ピクテグループ

※将来の市場環境の変動等により、当資料記載の内容が変更される場合があります。

ピクテのウェブサイト 最新情報にキャッチアップ！

ピクテ

検索

<http://www.pictet.co.jp>

Market Flash マーケット関連ニュース

ヨーロッパから見た世界のマーケット関連情報
ピクテならではの分析はこちら

MF



<http://www.pictet.co.jp/archives/category/news/markets>

Today's Headline 今日のヘッドライン

今、マーケットで注目の話題をプロの視点でレポート
平日夕方 毎日配信中！

TH



<http://www.pictet.co.jp/archives/category/news/headline>

Fund Watch ファンド関連ニュース

ファンドの現状と日々変動するマーケットの関係を
詳しく、解りやすく解説します

FW



<http://www.pictet.co.jp/archives/category/news/fundinfo>

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。